

本書の構成と利用法

■本書の構成

この問題集は、難関国立大の個別試験問題から精選した二十題の良問を、ジャンル別に配列した、記述トレーニング用の問題集です。

各問題の解答・解説は、駿台予備学校現代文科講師が、駿台文庫の「大学入試完全対策シリーズ(青本)」用に執筆したものをベースにしています。これに、各大学の試験時間・配点をもとに割り出した〈制限時間・配点〉や、難易度の目安(★☆☆標準、★★☆やや難、★★★かなり難)、さらに〈採点基準〉を加え、実戦的な練習ができるように編集してあります。

ここに収められた二十題(評論十二題・随筆五題・小説三題)と取り組むことで、難関国公立大を突破するために必要な、文章読解力と記述表現力を養い、志望校合格を果たされることを願っています。

■本書の利用法

① まず、〈問題編〉の最初に示した〈制限時間〉内で、ひとり問題解いてください。

——これは〈速く解く〉ための練習です。

② 次に、同じ問題について、時間を気にせず、もう一度じっくり読

んでください。本文の理解が深まったところで、記述解答についても、よりよい解答にできないかどうか、考え直してみましょう。

——これは〈きちんと考えて解く〉ための練習です。①と②とをくりかえすうちに、二つの力が結びつき、〈速く、きちんと考えて解く〉ことができるようになります。

③ 最後に、〈解説編〉を見て、〈解答・採点基準・解説〉を参考に、自分の答案を採点・添削してみよう。

——これは、自分の答案の欠点を自分で見つけ、修正する練習です。この練習をくりかえし、〈自分の答案を添削する力〉をつけてゆくことが、つまりは記述表現力を高めることなのです。よりよい答案を書く力とは、試験時間中に自分の答案を(頭の中で)添削できる力なのですから。

④ 漢字などの知識設問で誤ったものについては、その日のうちに復習し、覚えておくようにしましょう。読解設問については、しばらく日をおいて(解答・解説の内容を忘れかけたところに)もう一度同じ手順でやり直してみるのが効果的です。

——各問題の本文は、いずれも入試頻出のテーマ・主題を扱ったものです。したがって、本文自体をくりかえし読み、テーマ・主題についての理解を深めることも、意義のある復習となるでしょう。

目次

■ 評論

- 1 事実とは「配列」されているか？
- 2 文学の擁護
- 3 安全学
- 4 環境思想を学ぶ人のために
- 5 時間についての十二章
- 6 ネイションとの再会
- 7 美術のアイデンティティ
- 8 じぶん・この不思議な存在
- 9 アイデンティティ／他者性
- 10 考える身体
- 11 世界史の臨界
- 12 死と宗教

■ 随筆

- 1 言葉の重力
- 2 クレールという女
- 3 模倣と独立
- 4 天地有情
- 5 学問之独立

■ 小説

- 1 文字禍
- 2 一時間の航海
- 3 夜の靴

香西秀信……………6

加藤周一……………10

村上陽一郎……………12

加茂直樹……………15

内山節……………19

黒宮一太……………23

佐藤道信……………27

鷺田清一……………34

細見和之……………42

三浦雅士……………46

西谷修……………49

宇都宮輝夫……………52

岡部隆志……………58

須賀敦子……………61

夏目漱石……………66

南木佳士……………71

福沢諭吉……………74

中島敦……………77

福永武彦……………80

横光利一……………84

◇ 問題出典 ◇

■ 評論

- 1 北海道大学
- 2 一橋大学
- 3 大阪大学
- 4 東京大学
- 5 京都大学
- 6 九州大学
- 7 名古屋大学
- 8 神戸大学
- 9 九州大学
- 10 北海道大学
- 11 東北大学
- 12 東京大学

■ 随筆

- 1 東京大学
- 2 大阪大学
- 3 九州大学
- 4 京都大学
- 5 一橋大学

■ 小説

- 1 京都大学
- 2 大阪大学
- 3 東北大学

随筆 3

『模倣と独立』

夏目漱石

☆☆☆

35 分
60 点

九州大
解説 70 ページ

次の文を読んで、後の問いに答えよ。なお、字数制限がある場合は、句読点等も字数に数えるものとする。

私は人間を代表すると同時に私自身をも代表している。その私自身を代表しているという所からシュツタツして考えて見ると、イミテーションという代りにインデペンデントという事が重きを為さなければならぬ。人がするから自分もするのではない。人がそうすれば——他人は朝飯に粥を食う俺はパンを食う。他人は蕎麦を食う俺はゾウニを食う、われわれは自分勝手にやろうお前は三杯食う俺は五杯食う、というようなそういうことはイミテーションではない。他人が四杯食えば俺は六杯食う。それはイミテーションでないか知らぬが、事によると故意に反対することもある。これは不可ない。世の中には奇人というものがありまして、どうも人並みのことをしちやあ面白いから、何でも人とは反対をしなければ気が済まない。中には広告するためにやる奴もある。普通のことでは面白くないから、何か特別な事してみたいというので、髪の毛を伸ばしてみたり、冬夏帽を被ってみたり——それは此処の生徒などにもよくある。が、あれは無頓着から来るのでしょう。故意に俺は夏帽を被るといった日にはよほどの奇人となる。私のここにインデペンデントというのは、この故意を取り除ける。次には奇人を取り除ける。気が付かないのも勘定の中に入らない。それじゃあどういのがインデペンデントであるか。人間は自然天然に独立の傾向を有っている。人間は一方でイミテーション、一方で独立自尊、というような傾向を有っている。その内で区別してみれば、横着な奴と、横着でない奴と、横着でないけれども分らないから横着をやつて、まあ朝八時に起きる所を自然天然の傾向で十時頃まで寝ている。それはインデペンデントには違いないが、甚だどうも結構でない事かも知れません。それは我儘、横着であるが自然でもある、インデペンデントともなるけれども、これを取り除けということになる。最後に残るのは——貴方がたの中でよく誘惑ということを言いましよう。人と歩調を合わせていきたいという誘惑を感じても、如何せんどうも私にはその誘惑に従うわけに行かぬ。如何せんどうも歩調が揃わぬ。それは、諸君と行動を共にしたいけれども、どうもそう

行かないので仕方がない。こういうのをインデペンデントというのです。勿論それは体質上のそういう一種のデマンドじゃない、精神的の——ポジティブな内心のデマンドである。あるいはこれが道徳上に発現して来る場合もあります。あるいは芸術上に発現して来る場合もあります。精神的になって来ると——そうですね、古臭い例を引くようですが、坊さんというものは肉食妻帯をしない主義であります。それを真宗の方では、ずっと昔から肉を食った、女房を持っている。これはまあ思想上の大革命でしょう。親鸞上人に初めから非常な思想があり、非常な力があり、非常な強い根柢のある思想を持たなければ、あれほどの大改革は出来ない。言葉を換えて言えば親鸞は非常なインデペンデントの人といわなければならぬ。あれだけのことをするには初めからチャンとした、シツカリした根柢がある。そうして自分の執るべき道はそうでなければならぬ、外の坊主と歩調を共にしたいけれども、如何せん独り身の僕は唯女房を持ちたい肉食をしたいという、そんな意味ではない。その時分に、今でもそうだけれども、思い切って妻帯し肉食をするということ公言するのみならず、断行して御覧なさい。どの位迫害を受けるか分からない。もつとも迫害などを恐れるようではそんな事は出来ないでしょう。そんな小さい事を心配するようでは、こんな事はしきれないでしょう。其所にその人の自信なり、確乎たる精神なりがある。その人を支配する權威があつて初めてあいうことが出来るのである。だから親鸞上人は、一方じゃ人間全体の代表者かも知らんが、一方では著しき自己の代表者である。

今は古い例を挙げたが、今度はもつと新しい例を挙げれば、イブセンという人がある。イブセンの道徳主義は御承知の通り、昔の道徳というものはどうも駄目だという。何が駄目かといえば、あれは男に都合のよいように出来たものである。女というものは眼中に置かないで、強い男が自分の権利を振り廻すために自分の便利を計るために、一種の制裁なり法則というものを拵えて、弱い女を無視してそれを鉄窓の中に押し込めたのが今日までの道徳というものであるといっている。それでイブセンの道徳というものは二色にしなければならぬのである。男の道徳、女の道徳というようにしなければならぬ。女の方から見ますれば、それが逆にまあならなければならぬというのです。その思想、主義から出発して書いたものがイブセンの作の中にある。最も著しい例は、『ノラ』というようなものであります。それがイブセンという人は人間の代表者であると共に彼自身の代表者であるという特殊の点をハッキリしている。イミテーションではない。今までの道徳はそうだから、たといその道徳は不都合であるとは考えていても、別に仕様がなからまあそれに

従って置こう、というような余裕のある、そんな自己ではない。もつと特別な猛烈な自己である。^C

それがためイブセンは大変迫害を受けたという訳であります。無論事実不遇な人でありました。そのみならずあの人は特殊な人で、人間全体を代表しているというより彼自身を代表している方がよほど多い。そこで国を出て諸方をルロウして、たまに国へ帰っても評判がよくないから、国へは滅多に帰らなかった。或時国へ帰ってきた。国へ帰っても家がないから宿屋に泊っている。その時ブランドスという人がイブセンが来たから歓迎会を開こうというと、イブセンはそんな歓迎会などは御免蒙ると言っている。しかし折角の催しで人数も十二人だけだからといって、ようやくイブセンを説き伏せた。面倒を省くためにイブセンの泊っている宿屋で、帝国ホテルみたようなところで開くということになり、それでいよいよ当日になってちょうどよい時刻になったから、ブランドスはイブセンの室に行つてドアをコツコツと叩いて、衣服の用意は出来たかと外から聞いたら、イブセン曰く衣服などは持つておらぬ、自分は決して服装などは改めた事はない。シャツを着ている。シャツといっても露西亜辺では家の中ではこんな冬の日には温度が〔華氏〕七十度位にしてある。本でも読む時は上衣をとっている。外に出る時はこういうものを着るでしょう。それでシャツを着ているのはよいが、皆んなは燕尾服を着て来ているのだからというと、イブセンは自分の行李の中には燕尾服などは入っていない、もし燕尾服を着なければならぬようなら御免蒙るという。御客を呼んで、その御客が揃っているのに、御免を蒙られては大変だから——そんなことを言わないでどうか出てもらいたい、それじゃ出るといふ事になったが、ブランドスは実は十二人だった所が、段々と人数が殖えて二十四人になったという、そんな嘘を吐くならもう出ないという。実にてこずらされたということをブランドス自身が書いている。そんな事で色々面倒なことがあった末、ようよう連れて行つてチャンと坐らせた。ところが大将大いにふくれて一口も口をきかない、黙っている。まだ面白い話があるけれどもまあこれ位で切り上げてしましましょう。とにかく人間を代表しても獣を代表しても、イブセンはイブセンを代表していると言った方がよい。イブセンはイブセンなりと言った方が当っている。そういう特殊な人であります。この話はヨウチであります^⑤が、今のイブセンの道德の見解からいっても、イブセンはイミテーションという側の反対に立った人といわなければならぬ訳であります。

^Dそれで、人間にはこの二通りの人がある。というと、片方と片方は紅白みたように別れているように見えますが、一人の人がこの

両面を有っているということが一番適切である。人間には二種の何とかがあるということをよくいうものですが、それは大変間違いだ。そうすると片方は片方だけの性格しか具^{そな}えていないようになる。議論する人はそういう風になるから、あとがどうも事実から出^E発してない議論に陥ってしまう。とにかく二通りの人間があるということを言うが、これはこの両面を持つていてというのが、これが本統^{ほんとう}の事でしょう。いくらオリヂナルの人でもイミテーションの分子を何処^{どこ}かに持つていて。イミテーションの側に立つて考えると、これはどういう人がイミテーターかという、要するにイミテーターというものは人の真似をする。それだから自分に標準はない。あるいはあつても標準を立て通すだけの強い猛烈な勇気を欠いているか、どっちかなのである。しかしながらインデペンデントの側の方は、自分に一種の目安がある。アイデアル・センセーション、それが個人的になつておつて、とにかくそれを言い表わし、それを実行しなければいても立つてもどうしてもいられない。風変りではあるが、人からいくら非難されても、御前は風変りだと言われても、どうしてもこうしなければいけない。これはインデペンデントの方の分子を余計有つている人である。

〔注〕 デマンド＝要請、要求。

ポヂチブ＝プラス、積極的。

イブセン＝ノルウェーの劇作家。イブセン。

『ノラ』＝イブセン（イブセン）の戯曲『人形の家』のヒロインの名前。ここでは作品『人形の家』をさしている。

ブランドス＝デンマークの思想家、文学史家。

アイデアル・センセーション＝ここでは、考え行動する際の標準の意。

問1 傍線部a「インデペンデント」を本文中の他の表現で言いかえるとすれば、どれがもっとも適当か。漢字四字で答えよ。

問2 傍線部A「私のここにインデペンデントというのは、……インデペンデントであるか」とあるが、(ア)筆者のいう「インデペンデント」を定義した箇所を本文中から三十五字以内で抜き出し、(イ)これに照らして、「故意」と「奇人」と「気が付かないの」を除く理由を、明確に説明せよ。

問3 傍線部B「外の坊主と歩調を共にしたいけれども、如何せん独り身の僕は唯女房を持ちたい肉食をしたいという、そんな意味ではない」とあるが、どうして「そんな意味ではない」のか、その理由を答えよ。

問4 傍線部C「もっと特別な猛烈な自己である」とあるが、それはどのようなものか。イブセンの道德の見解をふまえて、要領よく説明せよ。

問5 傍線部D「それで、人間にはこの二通りの人がある」とあるが、「この二通りの人」とは、どういう人たちのことか。簡潔に答えよ。

問6 傍線部E「あとがどうも事実から出発していない議論に陥ってしまう」とあるが、ここにいう「事実」とは何のことか、答えよ。

問7 傍線部①～⑤のカタカナを漢字になおせ。

随筆3 『模倣と独立』 夏目漱石

解答

問1 独立自尊

問2 (ア) 諸君と行動を共にしたいけれども、どうもそう行かないので仕方がない (32字)

(イ) ただ反対したり、気性として反対したり、反対という意識がなかったりする点で、歩調を合わせる誘惑を意識していないし、独立自尊の精神的欲求もないから。

問3 親鸞の時代に肉食妻帯を公言、断行するには、迫害を恐れぬ非常な強い根柢のある思想と精神的独立が必要だから。

問4 イブセンは男が自分の権利を振り回すために女を無視して作り上げたものが今までの道徳だと見ていた。彼の自己は他に同調できず、大変な迫害を受けても道徳を批判する精神的要請に従い、日常の行動すら人に反するものであった。

問5 他に同調する模倣の人間と、自己の標準の実行を優先する独立の人。

問6 独立を優先する独創的な人にも、他に同調する性質があり、他に同調する模倣的な人にも、勇氣には欠けるが、独創的な性質があること。

問7 ① Ⅱ 出立 ② Ⅱ 雑煮 ③ Ⅲ 発揮 ④ Ⅱ 流浪 ⑤ Ⅱ 幼稚

配点・採点基準

60点

問1 (2点)

◇ 解答どおり。誤写は一箇所につき、マイナス1点。

問2 (ア) が (4点)、(イ) が (10点)

◇ 解答どおり。誤写は一箇所につき、マイナス2点。

(イ) ◇ ① 〈ただ反対したり〉の要素：1点

▼ 〈故意に〉ただただ反対する」というニュアンスがあれば、可。

② 〈気性として反対したり〉の要素：2点

▼ 〈性格〉に触れずに〈気が済まない〉程度のもは、1点。

③ 〈反対という意識がなかったり〉の要素：1点

▼ ①・②・③と、三点にわたって書き分けていれば、さらにプラス1点。

▼ 〈我儘〉〈横着〉〈自然〉の三語で説明したものは、〈反対する〉という

文脈で述べている場合のみ、①・②・③合わせて2点。

④ 〈歩調を合わせる誘惑を意識していない〉の要素：3点

▼ 〈歩調を合わせようとするが合わせられないということではなく〉でも可。

⑤ 〈独立自尊の精神的欲求もない〉の要素：2点

▼ 〈欲求〉のレベルで述べていないものは、1点。

▼ 末尾が理由説明に対応していないものはマイナス1点。

問3 (8点)

◇ ① 〈親鸞の時代に〉の要素：1点

▼ 時代としての限定が、必須。

② 〈肉食妻帯〉を〈公言〉〈断行〉の要素：各1点で計3点

▼ 〈肉食妻帯〉を必須とし、〈公言〉〈断行〉を加点する。

③ 〈迫害を恐れない〉の要素：1点

④ 〈非常な強い根柢のある〉の要素：1点

▼ 〈確乎たる精神〉〈自信〉〈ポジティブな内心のデマンド〉などは、この

要素の代替としてのみ、可。

- ⑤ 〈思想が必要〉〈精神的独立が必要〉の要素：各1点で計2点

▼ 末尾が理由説明に対応していないものはマイナス1点。

問4 (12点)

- ◇① 〈男が自分の権利を振り回すため(の道德)〉の要素：2点

▼ 〈男〉の〈権利を振り回す〉という表現があれば、可。

▼ 〈権利〉がなく、〈都合〉〈便利〉〈制裁〉などで説明したものは、1点。

- ② 〈女を無視して作り上げたもの(としての道德)〉の要素：2点

▼ 〈女〉の〈権利、人権の無視〉でも、〈無視〉に触れていれば、可。

- ③ 〈今までの道德〉の要素：1点

- ④ 〈イブセンは〉他に同調できず〉の要素：2点

▼ 〈周囲と歩調を合わせられない〉などでも可。

- ⑤ 〈大変な迫害を受けても〉の要素：1点

- ⑥ 〈道德を批判した〉の要素：1点

- ⑦ 〈自己の〉精神的要請に従い〉の要素：1点

▼ 〈内的欲求に従い〉などでも可。

- ⑧ 〈日常の行動すら人に反するものであった〉の要素：2点

▼ 〈道德〉レベルに対して〈日常生活〉のレベルに触れていることが、必須。

問5 (6点) * 「二通り」の内容を捉えていないものは、全体が0点。

- ◇① 〈他に同調する〉の要素：1点

- ② 〈模倣的人間〉の要素：2点

▼ 〈イミテーション〉のままなら、1点。

- ③ 〈自己の標準の実行を優先する〉の要素：1点

- ④ 〈独立の人〉の要素：2点

▼ 〈インデペンデント〉のままなら、1点。

問6 (8点) * 「①・②」と「③・⑤」のペアがなければ、全体が0点。

- ◇① 〈独立を優先する(人)〉〈独創的な人〉の要素：各1点で計2点

- ② 〈他に同調する性質がある〉の要素：1点

- ③ 〈他に同調する(人)〉〈模倣的な人〉の要素：各1点で計2点

- ④ 〈勇氣には欠けるが〉の要素：2点

- ⑤ 〈独創的な性質がある〉の要素：1点

▼ 〈インデペンデントにもイミテーションがある〉としたものは、①と②を合わせて1点。

▼ 〈イミテーターにもインデペンデントがある〉としたものは、③と⑤を合わせて1点。

を合わせて1点。

を合わせて1点。

問7 (各2点)

◇ 解答どおり。字画の乱雑なもの・不正確なものは、マイナス1～2点。

出典

夏目漱石「模倣と独立」(大正二年、第一高等学校における講演筆記)による。

夏目漱石(一八六七～一九一六)は、明治・大正時代の小説家、英文学者。東京帝国大学英文科卒業後、松山中学、第五高等学校の教師を経て、一九〇〇年イギリス留学。帰国後、一高、東大講師となり、一九〇五年に『吾輩は猫である』を発表。主な作品に『坊っちゃん』『虞美人草』『三四郎』『それから』『門』『こころ』『明暗』などがある。

解説

出典に記したとおり、夏目漱石の講演筆記が出典である。会話体であるから、原稿段階できちんと推敲された書き言葉(文章)とは違い、話し言葉独特の省略や反復、ずれや飛躍などがある。平易な調子で述べられている反面、「読む」という点で言えば、分かりにくいところもあったであろう。自分で省略や飛躍の穴を埋め、ずれを修正しつつ読むという作業が求められた。落ち着いて通読していったであろうか。

文章内容は、「インデペンデント(独立)」について、わかりやすい例をひきながら説明したものであり、例の箇所が長いので、それらをうまく

くカットしていけば、比較的簡単にまとめることができる。対立概念の「イミテーション（模倣）」や「インデペンデント」から除外される「故意」「奇人」「気が付かない」などとの違いを明らかにしていくのが前半の内容であり、後半（最終段落）では、「イミテーション」と「インデペンデント」は、すべての人間の持つ性質であって、二種類の人間が存在するのではないことを「事実」として説明している。

以下に、図式的にまとめておこう。

「インデペンデントとは何か」

「イミテーション」（模倣）＝人間全体を代表する部分（人並み）

・自分に標準がない

・標準があっても、立て通す強い猛烈な勇気を欠いている



「インデペンデント」（独立自尊）＝自己を代表する部分（非常・個人的）

・人と歩調を合わせていきたい誘惑を感じても、どうしようもない

・自分に一種の目安・標準があって、それを言い表し、実行せずにはおれない

「故意」＝わざと反対をする（広告するためなどを含む）

「奇人」＝なんでも人と反対をしなければ、気がすまない性格

「気が付かない」＝無頓着で結果的に人と反対になっているだけ

「インデペンデントとイミテーションの二面性」

・「二通りの人がある」というのは大間違い

・そういう議論は事実から出発していない



「事実」＝人間は「両面」を持っている

・オリヂナルの人でも、イミテーションの分子がある

・インデペンデントの側は、インデペンデントの分子を余計に持っている

以上の内容を、「親鸞」「イブセン」（イブセン）の例からも具体的に確かみながら、設問に答えていけばよい。

＊ただし、設問に答える際には、具体例のみに頼るというやり方はまずい。一般的な抽象論の箇所に基づいて解答を組み立てるといって考え方に立たねばならない。具体例は「何の具体例か」が分からないと、説明できないが、一般的な抽象論であれば、それだけでいくつでも具体例を作っていくことができる。たとえば、「ラーメンなど」では、何の例か決定できない。麺類が中華料理か脂肪分の多い食物か、何の例かが分からない。しかし、「スープを伴う食物」であれば、自分で考えて、「たとえばラーメンやワントンなど」と例示できるであろう。このように、本来に「分かりやすい」事柄の本質は、具体例ではなく、具体例前後の抽象論箇所にあることを忘れないようにしたい。

問1 四字熟語の抜き出し問題。もともと「インデペンデント」が「独立」であることは、知識としても、本文タイトルからも、読解からも、簡単につかめるであろう。あとは「独立」と同じ内容の四字熟語を探すだけで解ける。傍線部Aの直後に、「一方でイミテーション、一方で独立自尊」とある。

問2 キーワード「インデペンデント」の内容理解を問う問題である。「親鸞」の具体例直前までの要旨把握を問う問題ということもできる。解答のかぎは、インデペンデントの定義にあるから、まずは(A)の問題を解くことである。漱石は、あれはいけない、これは除くと言ってきて、「最後に残るのはこういうのをインデペンデントというのです」と述べている。そこには、「誘惑」について、「人と歩調を合わせていきたいという誘惑を感じても、如何せんどうも私にはその誘惑に従うわけに行かぬ」とあり、より簡潔に（三五字以内で）、「諸君と行動を共にしたいけれども、どうもそう行かないので仕方がない」と述べられている。これが(A)

の答え。

さらにここからは、「インデペンデント」の必要条件として、ヘイミテーションへの誘惑」がなければならないということが読み取れる。これが(イ)の解答要素となる。もともと「人と歩調を合わせていきたい誘惑」に駆られていないのなら、あえて独立心を貫く人であることにはならず、ただの「奇人」や、「故意」の反対と変わらないからである。また、人の反対をしていることに本人が「気が付かない」のも、誘惑を拒んでいることにならないから、インデペンデントとは言わないのである。

問3 要旨に基づいて、具体例の意味を説明させる問題。「独り身の僕は唯女房を持ちたい肉食をしたい」というのでは、単なる個人的欲望に過ぎない。その欲望に駆られて、「イミテーション」でなくなったとしても、それはただの犯罪や不道德と大して変わらない。親鸞上人の場合は、当時の因習に反する「大改革」を行おうとしたのであり、「公言」し、「断行」している。それは「迫害」を覚悟の勇氣ある行動であり、漱石に言わせれば、「非常に強い根柢のある思想を持たなければ」できないことである。つまり、単なる衝動や肉体的欲望に駆られての行動と違い、思想レベルの〈精神的なインデペンデント〉なのである。もともと「親鸞上人」の具体例が、「精神的の——ポジティブな内心のデマンド」の具体例であったことを見落としてはならない。

問4 前問と同様、要旨に基づいて、第二の具体例を説明させる問題。ただしここでは、「イブセンの道德観」という具体例の内容そのものをも要約させるねらいがある。既に、前問でも説明したように、この具体例も「今度はもつと新しい例を挙げれば」というだけで、もともとは「精神的の——ポジティブな内心のデマンド」の具体例である。最初の「親鸞上人」の具体例直前の箇所を踏まえた上で、イブセンの主張をまとめるとよい。

問5 指示語問題。直前を指示しているわけではないので、少し戸惑うかもしれないが、この文章で「この二通りの人」と言えば、「イミテーションとインデペンデントと」しかないであろう。傍線部直後から考えていけば、平易である。

問6 傍線部中の語句説明問題。最終段落の要旨理解を問うた問題と言えよう。「事実」とは、「本統の事」を指すから、「両面を持っている」ということである。

問7 標準的な二字熟語の書き取り問題。漢字問題は語彙問題であり、漢字問題が苦手であるということは、文章読解上必要不可欠な基本語彙が欠けていることになる。これでは読むにも解くにもしんどいので、漢字問題集と国語辞典を使って、語彙力をアップしておこう。